

本文

むかし、男ありけり。女の、え得まじかりけるを、年を経てよばひわたりけるを、からうじて盗み出でて〔①〕、いと暗きに来けり。芥川といふ河を率て行きければ、草の上に置きたりける露を、「かれは何ぞ〔②〕」となむ男に問ひける。

行く先多く、夜もふけにければ、鬼ある所とも知らで、神さへいといみじう鳴り、雨もいたう降りければ、あばらなる蔵に、女をば奥に押し入れて、男、弓、やなぐひを負ひて戸口にをり。「はや夜も明けなむ〔③〕」と思ひつつみたりけるに、鬼はや一口に食ひてけり。「あなや」と言ひけれど、神鳴る騒ぎに、え聞かざりけり〔④〕。

やうやう夜も明けゆくに、見れば、率て来し女もなし。足ずりをして泣けども、かひなし。

白玉か何ぞと人の問ひし時露と答へて消えなましものを

設問

- 本文中の助動詞「けり」（「男ありけり」「来けり」など）は、ここではどのような働きをしているか。文法的な意味を答えなさい。
- 冒頭の「女の、え得まじかりけるを、年を経てよばひわたりけるを」を現代語訳しなさい。
- 「え得まじかりけるを」の「まじ」は、ここではどのような意味を表しているか。最も適切なものを次から選びなさい。
ア 打消推量（～ないだろう） イ 不可能（～できそうにない） ウ 禁止（～してはいけない） エ 打消意志（～まい）
- 傍線部①「盗み出でて」を、文脈に合うように現代語訳しなさい。
- 傍線部①「盗み出でて」・傍線部④「え聞かざりけり」について、それぞれの主語（動作主）を本文中の語で答えなさい。
- 「率て行きければ」「降りければ」の「ければ」は、接続助詞「ば」が已然形に付いた形である。ここでの「ば」の意味（用法）を答えなさい。
- 本文中で、女が「草の上に置きたりける露」を見て言ったことばから、この女がどのような人物（育ち）であると読み取れるか。簡潔に説明しなさい。
- 傍線部②「かれは何ぞ」を、誰が誰に向かって言ったことばかを明らかにして、現代語訳しなさい。
- 「となむ男に問ひける」で、文末が「問ひけり」ではなく「問ひける」（連体形）となっているのはなぜか。文法的に説明しなさい。

10. 傍線部③「はや夜も明けなむ」の「なむ」の文法的説明として最も適切なものを次から選びなさい。
- ア 完了の助動詞「ぬ」未然形+推量の助動詞「む」
 - イ 強意（確述）の助動詞「ぬ」未然形+意志・願望の助動詞「む」
 - ウ ナ変動詞の活用語尾+推量の助動詞「む」
 - エ 係助詞「なむ」
11. 結末で女が消えたのは、本文では「鬼はや一口に食ひてけり」と表現されている。この「鬼一口」は、実際にはどのような出来事をたとえたものか。『伊勢物語』の背景をふまえて説明しなさい。
12. 「あなや」と言ひけれど、神鳴る騒ぎに、え聞かざりけり」を現代語訳しなさい。
13. 結末の「率て来し女もなし。足ずりをして泣けども、かひなし」を現代語訳しなさい。
14. 和歌「白玉か何ぞと人の問ひし時露と答へて消えなましものを」を、現代語訳しなさい。
15. 設問14の和歌の末尾「消えなましものを」の「なまし」には、ある文法的な意味がこめられている。その文法名を漢字で答え、和歌全体にどのような心情が表れているかを説明しなさい。
16. 設問14の和歌の中の「人」とは、具体的に誰を指すか。本文の内容をふまえて答えなさい。
17. 設問14の和歌で、男はなぜ女のことを「白玉（真珠）」や「露」にたとえているのか。その表現の効果を説明しなさい。
18. 次の本文中の語句の意味を答えなさい。
- (1) からうじて (2) あばらなる (3) やなぐひ
19. この章段で「鬼」がやって来た（女を食べた）ことになっている背景には、当時の貴族社会のどのような事情があったと考えられるか。「二条の後」という語を用いて説明しなさい。
20. 【文学史】『伊勢物語』について述べた次の文の空欄に当てはまる語を答えなさい。
- 『伊勢物語』は、和歌を中心に物語が展開する（ あ ）物語の代表作で、ある男の一代記の形をとる。主人公の男は、歌人（ い ）がモデルとされる。成立は（ う ）時代である。
21. 【文学史】『伊勢物語』と同じく、和歌を中心に短い話を連ねた作品（歌物語）を、『伊勢物語』以外に一つ挙げなさい。また、主人公のモデルとされる在原業平が選ばれている、すぐれた六人の歌人の総称を漢字で答えなさい。